

道写協

北海道写真協会

事務局 ■札幌市中央区大通西3丁目6道新文化事業社内
 011-210-5735(直通) 011-207-3939(FAX)
<http://www.dosyakyou.org/>

第129号

第63回写真道展にむけて

審査委員長 奥野時夫



■写真は感動の表現

第63回写真道展への応募も間近、皆様の作品作りも最終段階かと思えます。例年応募点数5千5百点以上と、全国的にも有数の公募展で入賞入選も全体の5%弱と云う難関ですが、日頃の精進の成果を発表し上位入賞にトライして下さい。

全体的に近年、作品の傾向として、北海道らしいおらかさからインパクトの大きい感動的な作品が少ない様に思います。

いろいろな被写体に挑戦することは望ま

いが、まず自分の好きなジャンルは何か…何をどう撮って、どう表現するかが重要です。

私は常にモットーとして「写真とは感動の表現」であるを心して撮影に臨んでいます。

シャッターを押す一瞬の感動を大切に作品にしましょう。作品のほとんどがデジタルの現在仕上りも素晴らしく、フィルム時代と遜色の無いグラデーション、カラーバランスの整った作品の多い昨今、全体的に美しく、楽しい作品が多い様に思います。もつと人間臭い、生活感のある泥臭い作品があっても良いのではないのでしょうか。

■第一部 自由の部

例年子供の遊び、記念写真的な楽しい写真が多く見られます。もつと家庭的なやさしさ、きびしさ、ほつとする暖かさ、など表現豊かな作品を待っています。周知のことですが、日本では人物を特定出来る作品は事前の承認を得ることに留意すること。

■第二部 観光・産業の部

この部では条件として北海道内の撮影場

所が特定出来る作品となっております。そのため作品の内容がマンネリ化して新鮮味に欠ける常態が続いている様に思います。

どうしても派手な被写体に眼が行きがちだが、もつと地味な足元から見つめ直してはどうでしょう。

■第三部 ネイチャーフォト

自然と云うとつてもない大きな視界で、森羅万象、動物、植物、と非常に広い分野での作品づくり、北海道ならではのチャンスの多い部です。実際に北海道は野性の宝庫と云われて、動物写真が数多く出点されているが、自然、ありのままがネイチャーの基本でありますが、過去には餌付けされたものやデータに疑点のある作品もあり判定のむずかしい分野であります。ネイチャーとはあくまで一切手を加えず、加工せずが絶対条件であります。

最後に例年少数ですが二重応募、類似作品、部門違いなどが見受けられますので、出品前の確認を忘れずに、あと二ヶ月皆様の感動の一枚をお待ちしています。

・略歴 / 1952北海道写真協会創立、入会

- ・ 個展 / 1979「バリ島の人びと」札幌ペンタックスギャラリー、1993〜1994野性の仲間たち釧路生涯学習センター、札幌市民ギャラリー、福岡フジフォトサロン、大阪フジフォトサロン、2001秘境探訪釧路市生涯学習センター、2002雲南秘境を訪ねて札幌フジフォトサロン、2004〜2006アジアの風に誘われて釧路市生涯学習センター、札幌フジフォトサロン、2010アジア点描釧路市生涯学習センター
- ・ 写真集 / 2006アジアの風に誘われて

心に残る旅がある

心の印画紙に焼き付けたい旅があります。
 旅の出会いはフォトジェニック。
 カメラ片手に出かけてみませんか。

◆お問い合わせ・お申し込みは

TEL(011)241-6401

ホームページ <http://www.doshinkanko.com/>

営業時間

月～金曜日 9:30～18:00
 土曜日 9:30～12:00
 日曜日・祝日は休業

旅行企画・実施
 安心と信頼の

道新観光

〒060-0042 札幌市中央区大通西3丁目道新ビル北一条館1階 道新プラザ内

私が期待する写真

招聘審査員 石津 聰



私が期待する作品は北海道らしさは勿論ですが、個々の感性を追求した作品です。自然であ

れ、街であれ人物であれ、自分の感性が写しこまれ、自分でなければ撮れない、作者の感覚を感じさせられる作品になってほしいと思います。

以前本州からの写真愛好家のツアーに同行したのですが、見るもの触れるものに夢中でシャッターを切っていました。

北海道は被写体の宝庫ですねと喜んでいたことを思い出し、私も改めて北海道の素晴らしさを再確認したものでした。

被写体は足元に、目の前に、周囲に広がっています。何をどう伝えるか、ぜひあなたの感性でしか撮れない作品を追求してください。有名な被写体でも同じことです。

被写体に向き合う姿勢

フィルムからデジタルに変わり、誰でも気軽に良い写真が撮れる時代になりました。そのせいか写す側が被写体と真剣に向き合う気迫が最近薄れてきているように感じられます。とに

かく数多くシャッターさえ切つてさえおけばという写し方になっていないでしょうか？

また画像処理による過度な色彩作品が多くなつてきています。

初めのうちは良いのですが、次第に目が慣れてエスカレートし、実際とは少しかけ離れた作品に仕上げてしまい、当人もそれが気にならなくなっているようにも思えます。

合成等の作品もしかりで、アートの一つと言つてしまえばそれまでですが、写真の本来の意味をもう一度考えてみるのが必要になっているのかもしれない。皆さんには被写体のままを心がけてほしいと思つています。

作り上げられ作品として静止したときは、それはあなたの記録となり更に記憶ともなるのです。悠久の瞬間、躍動の瞬間を切り取つた、

北海道を代表するにふさわしい作品を期待しています。

◆石津 聰先生の紹介◆

函館出身。17歳の頃から登山に興味を持ち、社会人となり山岳写真を撮り始める。

サラリーマン、撮影助手等を経て独学で写真を学ぶ。日本写真芸術学会会員。

1970 フリーの写真家に。

1988 「イシツ・フォト・オフィス」開設。

北海道の自然風景、都市風景と雪をライフワークに、山岳、アウトドア、スキーの専門誌に寄稿する等の撮影活動を続けている。

なお招聘審査員は、昨年紹介の小松ひとみさんが今回も担当。審査は委員長をはじめ総勢29名の審査会員が担当します



石津 聰 近作「都市のカタチ」 2015.8 撮影 (モノクロ)

写真道展応募上の決まりについて

5月に開催された支部長会議で写真道展に応募する作品の「線引き(枠線)や「ワク取り」について質問がありました。

応募作品の「線引き」は、余白(黒)と写真部分の境界を示す必要がある場合に認められるものですが、マジックによる書き込みや極細幅のテープ貼付による線引きは他の作品を汚損する恐れがあることから、2002年に募集要項や会報等でマジックやテープを使用しないよう協力を求めた経緯があります。

また、同時期、余白(黒)を極端に多くとつた作品を規格外とし、第59回展まで要項等にその旨を記述してきました。

現在は、募集要項にこれらに関する記述はありませんが、こういった経過も踏まえてマジックやテープを使用して線引きされた応募作品はなく、また余白(黒)を極端に多くとつた作品もほとんど出品されない状況にあります。

作品の応募にあたっては、今後とも「線引き」にはマジックやテープを使用せず、またプリントは余白(黒)を極端に多くとることなく一般的なサイズで出品されますようお願いいたします。

(写真道展審査係)

支部探訪ー夕張

支部長 安藤 文雄

■変遷を見つめ続けて

夕張は夕張岳から流れる川と、その支流が町の中央を流れ、その流域に沿って出来た町です。山や丘陵に囲まれて四季の変化や昼夜の気温の変化が大きく、アイヌ語のユーパロ(鉱泉の湧き出るところ)が町名の由来です。

明治24年の炭鉱開始から炭鉱の町として栄え、ひと頃は12万の人口をかぞえ、昭和18年に市となり炭都と呼ばれました。

昭和40年代になって国のエネルギー政策が変わって閉山が続ぎ、現在は観光の町として「石炭の歴史村」「マウントレースイスキー場」



夕張支部会員達 前列中央が安藤支部長

「国際冒険・ファンタスティック映画祭」を初めとする施設やイベントと銘産「夕張メロン」等が良く知られています。

■91歳まだ現役です

私、生まれも育ちも夕張です。故郷夕張の変遷をもう随分と長く眺めて来ました。大正14年生まれですから91歳になりますが未だ現役です。

高校教諭を33年続け、また66歳まで曹洞宗禅堂の住職も勤めました。

カメラや現像機を分解したり、組み立てたりするのが好きで、学生時代から始めた写真で故郷の往年の繁華街の賑わい、炭山祭りの活気・雪の中の子供たち、暮進する石炭列車、炭鉱街の日常等を撮影し、2冊の写真集にまとめました。

「夕張(ふるさと)を見つめて半世紀」

平成10年刊

「夕張 あ頃の炭都」河出書房新社

平成19年刊

■毎月新夕張駅に作品展示

昭和40年から道写協夕張支部長をお引き受けて50年になります。

夕張が炭都として栄えた往時は、支部員も女性を含め30人程も在籍し、道展にも度々入賞し、大臣賞まで獲得したこともありま



「炭住の路地でボクシング遊びをする子供達」千代田地区で昭和34年撮影 安藤文雄「あ頃の炭都」から

した。故橋本 博先生がモデルを連れて来てくれ、撮影会を開いたこと等を思い出します。

人口が1万人を切った現在は支部員も(掲載)写真のように少なくなりました。しかし支部例会は欠かさず年10回程開催し、毎月新夕張駅に作品を展示しています。

私にとっての写真は、記録であり、自分の歩みや時々々の想いを留めるものと考え、現在も故郷夕張を撮り続けています。

来年には札幌で個展を開こうと考え準備をしています。

札幌からは車で1時間、歴史を物語る被写体がいっぱいあります。夕張へどうぞお出かけください。

追記ー安藤支部長は12月18日に逝去されました。長年の支部活動に感謝し、心

からお悔やみを申し上げます。

◆◆学生写真道展広報活動◆◆

「創作的で若い感性の写真をお待ちしています」と書かれたリーフレット(ちらし)と募集要項を全道高校写真クラブの生徒達500人に手渡しで配布しました。「第34回学生写真道展」のPR活動です。

10月14日から苫小牧市民会館で開かれた高文連の全道高校写真研究大会初日は、紅葉の季節で秋晴れとなりました。

朝8時30分から会場入口で道写協苫小牧支部の会員4名が配布作業を行いました。顧問の先生、生徒、車椅子での参加の生徒達はおしなべて礼儀正しく、明るい笑顔で受け取ってくれました。若く活動的で、意欲に溢れた気概を感じ、未来への希望を見たような気持ちになりました。

この配布活動は毎年高文連写真研究大会が開催される各地の支部に依頼しています。来年以降該当の支部はご協力をお願いします。



「応募待ってます」 苫小牧支部 配布活動

第3回 支部例会フォトコンテスト 入賞・入選作品

平成27年5月～11月



審査風景



1 席「空の道しるべ」(カラー) 安田敏彦 (札幌)

第3回 支部例会フォトコンテスト審査発表

北海道写真協会会長 本郷 正利

平成27年12月8日北海道新聞社において、第3回支部例会フォトコンテストの審査が行われました。

全道10支部、62名の会員より141点の作品が寄せられました。

各支部例会の上位作品と言う事で、レベルの高い作品の中から、谷口勲夫審査委員長の厳正で、慎重な選考により以上の会員と支部が入賞・入選されました。おめでとうございます。

◆個人賞

- 1 席 安田 敏彦 (札幌)
- 2 席 鈴木 佳夫 (岩見沢)
- 村上 和子 (札幌)
- 3 席 中神由美子 (岩見沢)
- 林 繁造 (札幌)
- 一条 周一 (小樽)
- 入選 水上 孝子 (岩見沢)
- 木村 克己 (岩見沢)
- 田中 康夫 (恵庭)

◆支部賞

- 1 位 札幌支部 (24点)
- 2 位 岩見沢支部 (20点)
- 3 位 小樽支部 (6点)
- ※1 席(10点) 2 席(8点)
- 3 席(6点) 入選(3点)

※支部賞は3支部まで。

※表彰授与は、平成28年度支部長会議(総会)で行います。

■講評

日本芸術学会会員 谷口 勲夫

1 席▼安田敏彦さん「空の道しるべ」航空ショーの光景、滑走路に描かれた「ウエルカムとせ」の水鏡、ピンク服の少女の映り込みが色彩効果を盛り上げています。

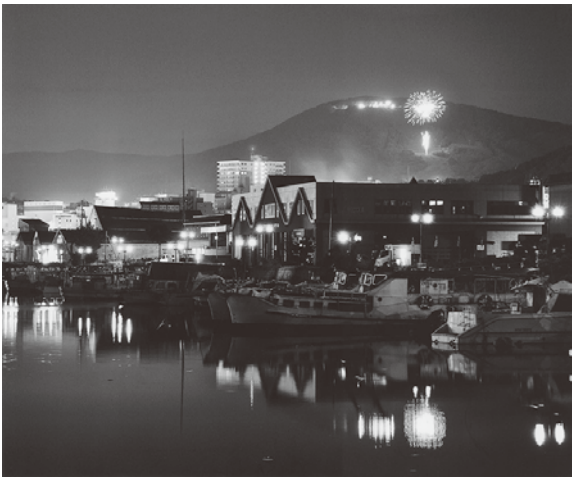
2 席▼鈴木佳夫さん「風が創る風景」糠平湖でしょうか。太陽のエネルギーを受け水位下がるたびに取り残された薄い氷が年輪のように美しい氷点下のアートです。

2 席▼村上和子さん「アイスマスター」眼光鋭く牙をむくミスティアな姿と遭遇、まるでSFの世界を連想させる不思議な技量、効果は素晴らしい見事な写真表現です。

3 席▼中神由美子さん「冷気を纏う」凍てつく森の中一枚の枯葉、虫食いのあとが白く霜で縁取られている。朽ち果てても自然界の物語を伝える美しい作品です。

3 席▼林繁造さん「天空の龍神」カナダのイエローナイフの町に出現したオーロラ激しく動く光の変化を読み露光量・感度を的確にぎめ宇宙の神秘を見せてくれました。

3 席▼桑周さん「運河・花火」天狗山スキー場に打ち上げられた花火を北運河の水鏡に上手く写し込んでます。街の近間のスキー場 観光の街小樽の魅力を伝えています。



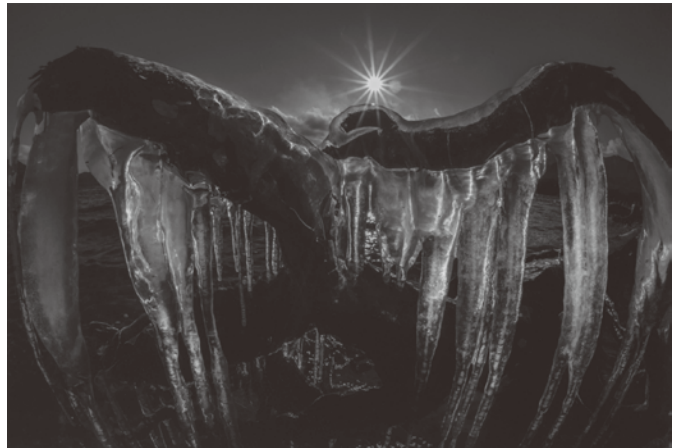
3席「運河・花火」(カラー) 一条周一 (小樽)



2席「風が創る風景」(カラー) 鈴木佳夫 (岩見沢)



入選「スポットライト」(カラー) 水上孝子 (岩見沢)



2席「アイスモンスター」(カラー) 村上和子 (札幌)



入選「雨にも負けず」(カラー) 木村克己 (岩見沢)



3席「冷気を纏う」(カラー) 中神由美子 (岩見沢)



入選「やさしい時間」(カラー) 田中康夫 (恵庭)



3席「天空の龍神」(カラー) 林繁造 (札幌)

支部例会成績

札 幌 支部長 山本隆晟

▽8月例会21日 宮川恵子審査会員選考)
 ①安田敏彦②藤田万理子③村上和子④山本隆晟
 ⑤山形典夫⑥荻田貞子⑦原禎子⑧林繁造⑨木全
 正樹⑩難波江

▽9月例会18日 加賀谷重雄審査会員選考)
 ①林繁造②木全正樹③今明美④山形典夫⑤山
 本隆晟⑥難波江⑦村上和子⑧員沼正雄⑨荻田貞
 子⑩香取征子

▽10月例会16日 河江利幸審査会員選考)
 ①山形典夫②村上和子③安田敏彦④今明美⑤高
 谷喜⑥脇田健司⑦坂本幸夫⑧山本隆晟⑨澤田
 一夫⑩難波江

▽11月例会20日 経塚剛敏審査会員選考)
 ①安田敏彦②村上和子③今明美④藤原富夫⑤
 難波江⑥山本隆晟⑦小賀野京子⑧十橋丈一⑨山
 形典夫⑩澤田一夫

旭 川 支部長 馬場和美

▽8月例会6日 田村健太郎審査会員選考)
 (特選)①③白鳥敏昭②細川貞子④佐藤繁雅⑤
 田中富子 (入選)田中昭一 吉田清次郎 池
 田政人 吉田祥子 武田千枝子 小山満

▽9月例会10日 福田光男・田本實審査会員選考)
 (特選)①③森田正義②佐藤繁雅④小山満⑤早
 坂藤男(入選)白田忠雄 鈴木幸雄 武田千枝
 子 伊藤勝利 山本寿子

▽10月例会8日 田本實審査会員選考)
 (特選)①③佐藤繁雅②白田忠雄④小山満⑤吉
 田清次郎 (入選)細川貞子 森田正義 吉田
 祥子 白鳥敏昭 伊藤勝利 田中昭一

▽11月例会12日 志賀芳彦審査会員選考)
 (特選)①⑤小山満②池田政人③④伊藤勝利
 (入選)田中昭一 浦島寛 吉田祥子 白鳥敏昭
 細川貞子 安藤定男 佐藤繁雅

小 樽 支部長 川原静雄

▽9月例会2日 瀧野邦保審査会員選考)
 ①小林好江「日暮れが鳴く頃」②一条周③白石純
 ④松居秀昭⑤根本辰男⑥嵯峨秋雄⑦成沢克朗



9月例会 1位「日暮れが鳴く頃」 小林好江
 ▽11月例会 (4日) 本郷 正利審査会 員選考)
 ①一条周一
 ②嵯峨秋雄
 ③根本辰男
 ④白石純
 ⑤佐々木博
 ⑥松居秀昭
 ⑦成沢克朗

釧 路 支部長 岡本雄毅

▽9月例会10日 工藤一男審査会員選考)
 ①中嶋淳②富田智春③林田定昭④長尾芳文
 ⑤松坂正彦⑥橋本憲一

▽11月例会12日 佐藤武治審査会員選考)
 ①林田定昭②松坂正彦③水谷博之④松本紀
 幸⑤北構善一朗⑥蛭名昇

三 笠 支部長 伊藤修身

▽27年度写真コンテスト(加賀谷重雄審査
 会員選考) 推薦「ドアの向こう側」谷内純哉
 (特選) 古平文男 澤田住子(進特選) 上田
 進 当銀敏人 高橋英昭 (入選) 高橋英昭
 澤田住子 古平文男 石橋昭次郎 上田 進
 伊藤修身 金武紀雄 谷内純哉



27年度写真コンテスト 推薦 「ドアの向こう側」(カラー) 谷内 純哉

余 市 支部長 一戸弘利

▽9月例会12日 審査互選)
 ①⑤⑦谷橋準二 紫陽花②③⑤⑦塩野謙造
 ②⑦石岡誠二④二戸弘利④⑥⑦谷橋誠子



9月例会 1位「紫陽花」(カラー) 谷橋準一
 ▽10月例会 (10日) 審査 互選)
 ①⑥⑦
 ②石岡誠二
 ③谷橋誠子
 ④一戸弘利
 ⑤谷橋準一
 ⑥金子勝彦
 ⑦塩野謙造

恵 庭 支部長 西澤 實

▽9月例会14日 審査互選)
 ①吉村登美子「競う」②佐野ミヨ③吉村剛③村井
 正人③加藤 憲秋③服部 健治③黒 健二

▽10月例会 (12日) 審査互
 選)
 ①五東建夫
 ②吉村剛
 ③山下支朗
 ④田中康夫
 ⑤加藤憲秋
 ⑥今在義弘
 ⑦服部健治
 ⑧菅原恵子
 ⑨吉村登美子



9月例会 1位「競う」(カラー) 吉村登美子

室 蘭 支部長 佐々木昇

▽11月例会9日 加賀谷重雄審査会員選考)
 ①西澤實②吉村登美子③佐野ミヨ④吉村剛⑤山
 下支朗⑥加藤憲秋⑦田中康夫⑧村井正人⑨五東
 建夫

▽9月例会25日 中野潤子審査会員選考)
 ①太田秀樹②田村謙次②鳥海政史③高木妙子
 ③成田正利(入選) 多田逸二 長澤剛 三輪博
 大坪恵子 森美津雄 山田しげき 工藤可郎

▽11月例会25日 山下智審査会員選考)
 ①鳥海政史②成田正利②栃元幸③三輪博③
 田村謙次③太田秀樹③森美津雄 (入選) 山田清
 滋 太田秀樹 大坪恵子 森美津雄 長澤剛
 吉井良平

留 萌 支部長 崎出恒夫

▽8月例会9日 審査互選)
 ①谷幹浩②③松葉師正③川上正己③畑忠幸
 ③谷幹浩②③川上正己③加藤美佳③畑忠幸
 ③加藤美佳③畑忠幸

▽10月例会4日 審査互選)
 ①澤岡政江②畑忠幸③川上正己
 ③加藤美佳③畑忠幸
 ③加藤美佳③畑忠幸
 ③加藤美佳③畑忠幸

栗 山 支部長 黒田幸則

▽9月例会18日 山岸幸雄審査会員選考)
 ①斎藤優子②黒田幸則②斎藤優子③志田静治③
 中島武士2点(入選) 黒田幸則3点 中島武士
 2点 斎藤優子

岩見沢 支部長 山崎正義

▽8月例会12日 審査互選)
 ①中神由美子②友広茂夫③木村克己
 ③木村克己③木村克己③木村克己
 ③木村克己③木村克己③木村克己

▽10月例会14日 審査互選)
 ①友宏茂夫①木村克己③鈴木佳夫
 ③鈴木佳夫③鈴木佳夫③鈴木佳夫
 ③鈴木佳夫③鈴木佳夫③鈴木佳夫

編集後記

年間3回の会報発行ですが、「写真道展に向け
 て」審査会報告「支部長会議報告」と3つの
 企画を中心に、支部・会員間の情報提供をし
 ています。各位には、原稿執筆、支部状況、写真
 展の開催、例会成績等々お寄せ頂き厚くお礼
 申し上げます。今後も、可能な限り寄せられた
 情報の掲載をしたいと考えています。(森)